

研究課題名	広島大学病院における胆管結石の治療成績調査
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	実施許可日 ～ 2033年12月31日
対象者	1995年1月1日から2031年12月31日の間に、広島大学病院にて治療を施行した胆管結石（総胆管結石、肝内結石）の患者さん。
意義・目的	総胆管結石症は日常診療において頻度の高い疾患であり、有症状、無症状関係なく治療適応とされ、古くから侵襲の少ない内視鏡を用いた治療が第一選択とされてきました。総胆管結石の約85-90%はこれらの標準的治療で治療可能ですが、巨大結石や多発・積み上げ結石、嵌頓結石、術後再建腸管における胆管結石、肝内結石などのような治療困難な胆管結石にもしばしば遭遇します。これらの難治性胆管結石に対しては、内視鏡的乳頭大口径バルーン拡張術や胆道鏡下の電気水圧衝撃波結石破碎術、バルーン内視鏡下での治療、経皮的治療、体外衝撃波結石破碎療法、外科的治療など様々な方法が用いられていますが、治療法の選択については十分なコンセンサスが得られていないのが現状です。本研究の目的は、難治性結石の臨床的特徴や治療、治療後の経過、それぞれの治療法の適切な選択方法や問題点などを明らかにすることであり、本研究によって難治性胆管結石に対する治療選択の指針となることが期待されます。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は年齢、性別、背景疾患、血液検査、各種画像検査所見、治療内容、治療後の経過などです。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）
共同研究機関	当院での単独の研究です。
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科 消化器内科学 教授 岡 志郎
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 T e l : 082-257-5193 広島大学病院 消化器代謝内科 クリニカルスタッフ 飯島徳章, 診療講師 石井康隆